



ねんりんピック石川2010 鹿児島県選手団180人参加

第23回全国健康福祉祭(ねんりんピック石川2010)は、去る10月9日から12日までの四日間、北陸の石川県で「光る汗! 輝くいしかわ 笑顔の輪」をテーマに開催されました。鹿児島県からは諏訪弘美県社会福祉協議会常務理事を団長に、21種目の競技に監督・選手169人、役員11人の総勢180人が参加しました。

8日の出発日には、鹿児島空港で結団式が行われました。監督・選手はお揃いのユニフォーム姿で式に臨み、県旗の授与、県知事・県議会議員・県社会福祉協議会会長の激励や激励賞の贈呈を受け、最後に水泳の木原千春選手が「私達は、精一杯のプレーをするつもりで、鹿児島を全国の皆さまにPRして参ります」と決意を述べました。

大会初日には石川県西部緑地公園陸上競技場で常陸宮殿下ご夫妻を迎えるの総合開会式があり、あいにくの雨の中本県選手団は旗手(木原千春選手)を先頭に堂々の行進をし、県のマスコットキャラクター「さくらじまん」をあしらったハンカチを頭上に高く掲げアピールしました。また、今回は、

来年開催される「第28回全国都市緑化かごしまフェア」の横断幕を携えて行進し、同フェアのアピールも行いました。

二日目、三日目は各地(石川県下10市3町)で競技があり、本県の選手達は長年の経験と日頃の練習の成果を遺憾なく発揮しました。また、全国の選手との温かい交流、更には北陸の自然や味も堪能し、初参加者からは「こんなに楽しいものとは知らなかった」という声も聞かれるなど、選手達にとっては有意義な大会参加となりました。

なお、今大会でも、関連イベントとして美術展(鹿児島県からは11点出展)、地域文化伝承館、音楽文化祭、シンポジウム等が並行して開催されました。

初参加者からは「こんなに楽しいものとは知らなかった」という声も聞かれるなど、選手達にとっては有意義な大会参加となりました。

